ベアファイバコネクタ QDQ-25 使用方法 v1

はじめに

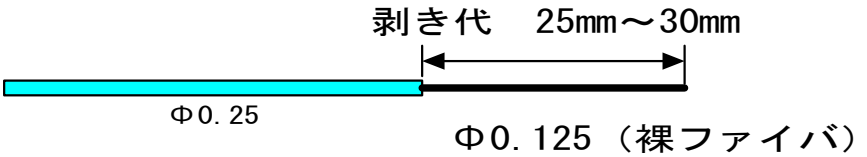
弊社のベアファイバコネクタ（以下 BFC と呼ぶ）をご検討いただき、誠にありがとうございます。

QDQ-25 は、φ0.25 ファイバ素線を、大口径受光素子をディテクタに用いた測定機用です。（φ１以下のファイバ直接コンタクト型測定機には QDQ-6 をお使いください。）

≪組立方法≫

① UV 被覆剥き：ファイバの被覆（UV アクリレート）をファイバストリッパで２５～３０㎜剥きます。

参考：被覆剥きに、弊社工場では NTT－AT 社製ファイバニッパを使用しています。販売もいたしております。

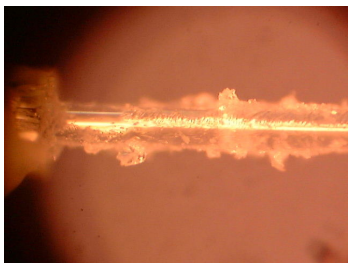


② ファイバの清掃：ベアファイバ（裸ファイバ）を清掃

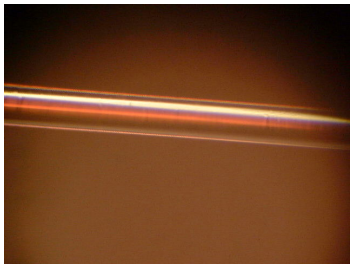
アルコールを染込ませたベンコット®で、軽く１～2 回拭く。

QDQ-25 は、多少拭き取りが悪くても楽にファイバが通ります。

清掃前

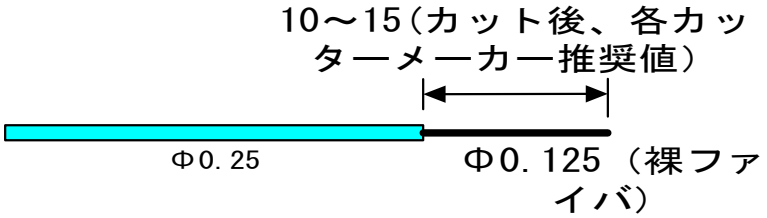


清掃後



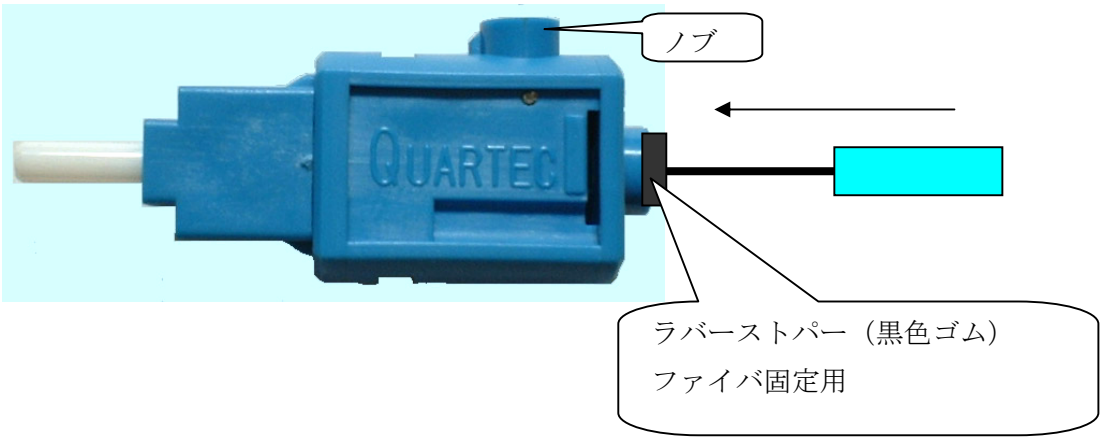
③ ファイバカット：市販のファイバカッターで切断

市販品のファイバカッター（メーカーは、住友電工、古河電工、フジクラ様など）を使用します。大変良好な再現性が得られます。
（剥き代は、QDQ-25 の場合、1ｍｍでも問題ありません。）



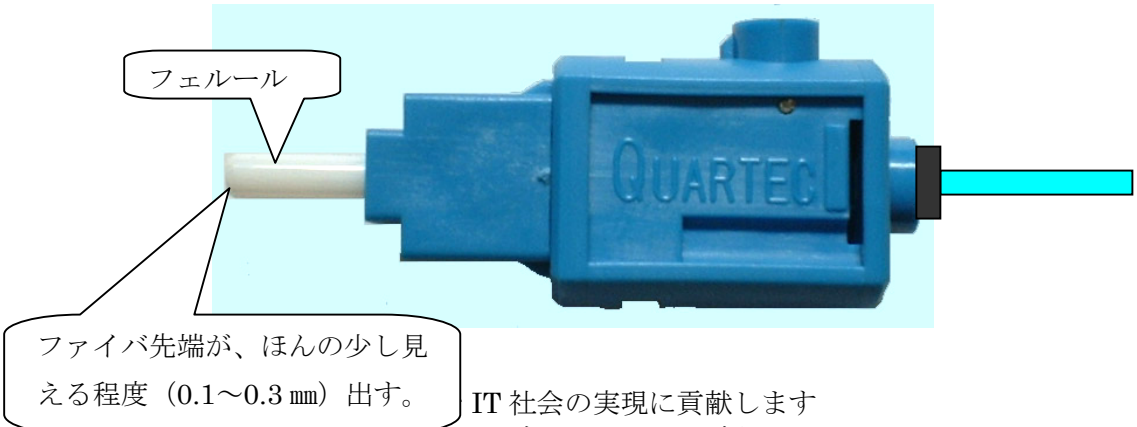
危険：カットしたファイバは、皮膚や目に入ると危険です。粘着テープなどで、排除してください。

④ ファイバ組付け：BFC のノブを押しながら、ファイバをゆっくり挿入する。



⑤ **ファイバ先端のフェルール先端への位置合せ。**（少し出るぐらいが好ましい）

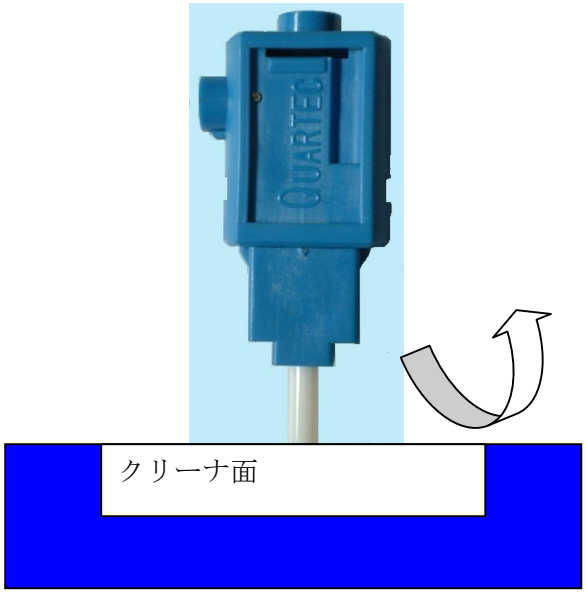
⚠ファイバが出過ぎたり、引っ込み過ぎると、測定機によっては正確に測定できない事が有りますので、注意してください。



⑥ **ファイバ先端面の清掃**（必ず実施して下さい）

ファイバクリーナ（オプティポップ OPTIPOP　R（NTT-AT 製））を使って清掃します。

方法は、フェルール端面をオプティポップに「軽く押し当てて、擦る」のを 1～2 回繰り返す。このときファイバが引っかかりますが、問題ありません。（下図参照）



フェルールを
① クリーナに軽く押し当て
② ほんの少し(0.3 ㎜程度)横へずらしながら、面から離す。
③ 2 回程度繰り返す。

⑦ **ファイバ端面の確認**（500 回に一回程度実施するだけで良い）

慣れない内は、ファイバ端面を×200 又は×400 倍のファイバスコープで観ます。通常、研磨面と同等以上の綺麗な端面が確認できます。

＞ファイバの周囲の一部にピントはずれが無ければ、直角に切れていることになります。
＞ファイバの中心 300μ以内にキズ・汚れが無ければ、良好です。

⚠ファイバカッターの刃の状態により、やや断面が平坦で無い場合があります。そのため、500 回に一回程度の割合で定期的に確認する必要があります。